



主催：横浜市、明治大学非営利・公共経営研究所

第50回アジア開発銀行(ADB)年次総会横浜開催 連携事業
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 採択事業



共創オープンフォーラム ソーシャルインパクト・フォーラム 横浜

日時：平成29年4月22日(土)

12時30分～18時(開場12時)

会場：パシフィコ横浜 会議センター 5階 503

西区みなとみらい1-1-1 みなとみらい線みなとみらい駅
徒歩5分

参加費：無料(同時通訳あり) 定員：200名

申込み：4月20日(木)まで

<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kyoso/forum/>

※応募多数の場合は、先着順とし、事前にお断りさせていただく場合もあります。

事務局からご連絡がなければ、当日会場に直接いらしてください。



■第1部【基調講演】 12:50-14:10 (80分)

※同時通訳あり

「ソーシャル・インパクト・ボンドの世界的動向～その神話と現実」

オックスフォード大学サイド・ビジネススクール教授
アレックス・ニコラス 氏

〈コメンテーター〉

チー・ホーン・シン氏 (イギリス：OPM事業開発マネージャー)

金子 郁容 氏 (慶應義塾大学名誉教授、明治大学経営学部 特任講師)

登壇者プロフィール



アレックス・ニコラス教授 (Professor Alex Nicholls)

オックスフォード大学サイド・ビジネススクールでソーシャル・アントレプレナーシップやソーシャル・イノベーションの研究に携わる。ソーシャル・インパクト・ボンド等のインパクト投資、フェアトレード等が主な研究テーマ。「Social Finance」(Oxford University Press,2015・共著)、「Social Entrepreneurship」(Oxford University Press,2006/Sage,2005・共著)など著書多数

〈コメンテーター〉

チー・ホーン・シン氏 (Dr Chih Hoong Sin)



OPMの事業開発ディレクター。エセックス県でのSIBを始め様々なSIBプロジェクトの評価を行っている。政府内のSIBに対する理解を広めるために、英国内閣府が主催する委託業務に関するアカデミー内のSIBに関する特別講座を担当。またブリッジズ・ベンチャーズとバンク・オブ・アメリカ・メリルリンチが発行したSIBの実務家向け案内書「Choosing Social Impact Bonds: A Practitioner's Guide」の作成に関わった。

金子 郁容 教授



ウィスコンシン大学准教授、一橋大学教授などを経て、現在は慶應義塾大学名誉教授、2014年度から明治大学経営学部特任講師。専門は情報組織論・ネットワーク論・コミュニティ論等。主な著書に「ボランティア もうひとつの情報社会」(岩波新書)、「ソーシャルインパクト・ボンドとは何か」(共著、ミネルヴァ書房)、「スポーツのちから - 地域をかえるソーシャルイノベーションの実践」(共著、慶應大学出版会)等がある。

【裏面あり】

イギリス等先進国でのソーシャル・インパクト・ボンドの事例や、日本の現状、横浜市における社会的インパクト評価モデル事業について、プレゼンテーション及びパネルディスカッションを実施します。

事例発表1 ~SIBの便益と課題：サービス提供者にとって~

ティーンズ・アンド・トドラーズ (Teens & Toddlers)

英国・マンチェスターのNPO法人。2011年雇用年金省 (Department for Work & Pensions: DWP) が公募し採択されたSIBスキームの1つで、14歳から16歳の若者のニート予防のため、行動改善・学習支援手法を取り入れたプログラムを実施した。2015年7月に、世界的で初めて投資家への支払い可能なアウトカムを達成したSIBの1つ。



ミッシェル・ファレル・ベル氏



ポール・ホプキンズ氏

事例発表2 ~SIBはいかにして社会インパクトを創出するのか?~

トリオドス銀行 (Triodos Bank)

オランダを本拠地に置く。融資先を「社会的側面、経済的側面、文化的側面の付加価値を創出し、持続可能なセクターで活動していること」を基準とし、限定する。

2011年雇用年金省 (Department for Work & Pensions: DWP) が公募し採択されたSIBスキームの1つで、英国グレーター・マーシーサイドにおける失業中の若者へ介入する「ニュー・ホライズン・プログラム」を実施した。達成したSIBの1つ。



ダン・ハード氏

事例発表3 ~オーストラリアにおけるSIBの動向、パフォーマンス及び課題~

KPMG

オーストラリアにおける民間資本活用手法「ソーシャル・ベネフィット・ボンド (SBB)」の初の事例。ニューサウスウェールズ州家族・コミュニティサービス省 (UnitingCare Burnside:UCB) が公募し実施。児童養護施設等の支援を受けている子どもを安全に家庭へ戻すための支援と犯罪常習者対策について受託し実施した。



ルース・ローレンス氏

事例発表4 横浜におけるパイロット事業について~子どもの力を育む居場所づくりに向けた取り組み~

社会福祉法人 たすけあい ゆい

たすけあいグループ結として、1991年に設立された有償ボランティア市民グループから始まり、現在では、ケアプラザの運営、高齢者福祉事業、障害者福祉事業、児童福祉事業を行う。



濱田 静江氏



塚本 一郎 氏 (明治大学経営学部 教授/株公共経営・社会戦略研究所 代表取締役)

専門分野は社会的企業論、公共経営論、社会的投資、インパクト評価。

内閣府「政府と市民セクター等との公契約等のありかた等に関する専門調査会」委員、内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査に関する研究会」委員・座長、環境省「企業の生物多様性保全活動の経済価値評価に係る技術的検討会」委員等、公的機関委員を多数歴任。

パネルディスカッション

事例発表者の皆様とモデレーターによるディスカッション

〈モデレーター〉 金子 郁容 教授

明治大学経営学部 学生研究グループによるプレゼンテーション

〈コメンテーター〉 岡部 友彦 氏

コトラボ合同会社代表。横浜市立大学非常勤講師。1977年神奈川県生まれ。”モノ”づくりではなく、”コト”づくりからまちづくりに取り組み、街のイメージチェンジを行うとともに、街の資源を活用し、新たな産業を創出。「ヨコハマホステルビレッジ」や、愛媛県松山市のシャッター商店街活性化の取り組みとして、「ミツハマル」の運営などを行っている。

